

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0173200874), 法人名 (有限会社美深シルバー支援), 事業所名 (グループホーム びふか さくら), 所在地 (中川郡美深町字南町25番地), 自己評価作成日 (令和3年9月10日), 評価結果市町村受理日 (令和3年12月22日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道から入った田圃の中にあります。敷地の中央では草花や野菜を栽培しています。収穫された野菜や季節に合わせた魚なども取り入れ、手作りの食事を提供し、食卓でも季節感を感じられるようにしています。住み慣れた地域で利用者様本位の自由な暮らしができるよう支援しています。入居後も毎月のお便りや家族会の開催により入居者様の変化をご家族に感じてもらうよう配慮しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyosyoCd=0173200585-00&ServiceCd=320](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0173200585-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年10月1日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、町から車で数分の田園地帯の一角にあり、周囲は手入れが行き届いた畑が広がった、静かな環境下に立地している。建物は平屋建ての2ユニットで、それぞれの建物が連絡通路で結合され、自由な往来が確保されている。同事業所は認知症のデイサービスも併用し、また同一敷地内に同法人が経営する居宅と訪問介護事業所があり、近隣にはサ高住も同法人が事業展開をしている。ケアについても、炊事や掃除、入浴を介護員の仕事から切り離して介護職の負担を減少させ、医療が不可欠となった看取り介護については、特別養護老人ホームや療養型の病院にお願いするなど、介護領域の分担を明確化し、当事業所は生活分野の特化を目指し、一人ひとりの日々の暮らしをより充実させる方向で取り組みを進めている。また、職員体制についても地域での雇用に拘らず、早くから代表者が現地に出向き、外国人を積極的に受け入れる仕組みを構築しており、住居の提供や国ごとの習慣に合わせた就労支援を行い、安心して働ける環境を作っている。現在、次年度開設に向けてユニットの増設が行われており、今後の更なる活躍が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	壁に掲げてある理念を意識して、職員一人ひとりが日々のケアを実践、向上を目指している。	事業所理念を玄関やリビングに掲示し、日常的に共有している。主に申し送りやユニット会議の場で、理念への理解を深めており、日々その実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は事業所の行事に地域の方を招待しコミュニケーションをとることで理解を広めていたが、昨今は社会情勢もあり実施できていない。	現在は相互に往来を自粛しているが、通例では地域からの運営推進会議への参加や、災害時の相互の協力体制等、関係の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケアマネージャーと連携してデイサービスやお泊りデイを提供することで地域の方へ支援を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況や提供しているサービス内容を報告し、出席者から評価、要望、助言、意見を聴取してサービスの質の向上につなげている。	運営推進会議には、行政や包括、民生委員、特養ホーム職員等の多彩な顔ぶれで2ヶ月ごとに定期に開催している。行事内容や待機数、デイの参加状況から福祉的な課題まで話し合い、今後のサービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政と連携して情報共有し、利用者、家族の方に対する生活支援をより充実させ、地域近隣で安心して暮らすことができる支援体制づくりに役立っている。	行政窓口とは、各種の情報交換や地域的な支援体制の問題で連携して役割を担っており、信頼感に富んだ友好的な関係が続いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義を明確にし、職員一同で見守りや危険予測を行い、利用者の安全を第一に考えた身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開催、内容について全職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、職員間で協議している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義を職員に周知、教育して、身体的、心理的虐待、介護放棄などが起こる要因を十分に理解して防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解できるよう勉強会やケアカンファレンスで議題として取り扱い、個々の知識を深める事でそれらを活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、改定の際には事前に十分な時間をとり説明しており、不安や疑問を解消できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた際に利用者様の近況を話すようにしており、ご家族の意見や要望を聞く機会を作るよう努めている。	利用者からの意見・要望を聞き取り、職員間で定例で検討する機会を持っている。また、家族には電話の他、毎月のホーム便りで生活の様子、体調面を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開いており、日々のケアだけではなく運営方針についても協議しており、代表者や管理者へと意見を提案する機会を設けている。	申し送りやユニット会議の場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、個別の相談には管理者が随時対応する等、働きやすい環境作りに配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の状況を把握するため普段から交流の機会を設けている。また、実績に応じて資格取得を勧め、研修費を負担するなどして向上心を持って働けるような環境作りの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルに合わせ、働きながらトレーニングできるようサポートする体制を作っている。また、外部の研修でも興味のあるものに参加できるように広く情報提供をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で中止となっているが、以前は施設研修、交流会、勉強会を実施しサービスの向上を図っていた。また、実習生や研修生の受け入れも積極的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族に来所して頂き、生活の様子などを見て頂いた上で本人や家族の希望、要望を聞くなどして安心してサービスが受けられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時などに家族の方に本人の状況やご家族の希望、要望等を詳しく聞き、その後も継続的に意見交換するなどして良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子や家族の関わり、不安な状況を確認し、本人本来の生活に近づく支援や必要としているサービスにつなげられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという考えを職員が共有し、利用者からの教えも大切にして、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りや声掛けをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際にご本人の生活がわかるようお話をしたりする他、月に1度ご本人の様子を手紙でお知らせしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい友人等が面会に来られた時は場所を提供し、ご家族の了承があれば外出や外泊などができるよう支援している。	通例では、馴染みの場所や希望する場所への訪問は、職員の同行や家族の協力を得て、希望に添える様、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やテレビ鑑賞、レクリエーション等で利用者同士が関わりあえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も必要に応じた支援を行い、これまでの関係性を断ち切らないよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションやモニタリングの他、ご家族とも協力して本人の希望や意向を把握をするよう努めている。	会話や表情から思いや希望を把握し、職員間で検討している。家族からも情報を得て、入居時の基本情報に加え、定期的にはアセスメントを行い情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努	本人、家族からの情報をもとにこれまでの生活環境や習慣、サービスの利用経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を活用して現状の生活状況や心身の状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすため、本人、家族との話し合いの上でミーティングを行い、現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	職員ミーティングでモニタリング結果を検証し、本人・家族の要望や医師・看護師の意見を考慮しながら、介護計画を作成している。また随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の変化や気づき、新たなアプローチに対する結果を記入し職員間で情報共有する事により、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに無いニーズに対してもできる限りの支援を行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができるよう、地域資源とも協力しながら支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望する適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医は、利用者と家族の意向に沿って決定している。原則として受診は職員同行で支援しており、受診内容については記録を基に、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝のバイタル測定、入浴時の身体の異常確認、会話等からの気付きを職員間で共有し、異常の早期発見や受診へ活かすよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際は医療機関や家族とのコミュニケーションを密に取り合うよう努めており、入院後の経過を医療機関、家族と共有して対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族が来所された際に今後のケアの方針などを話し合っており、重度化した場合や終末期のあり方についても事業所のできる事を説明し、対応を共有している。	契約時に事業所の指針を説明し、同意を得ている。医療機関との協力体制があり、家族と共に終末期を支えるために話し合いを重ねている。利用者の状況に合わせた職員間の話し合いも、適時行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変に備えたマニュアルを整備し、応急処置やその後の対応などを周知している他、急変や事故が予測される状況であるならば職員間で協議し対応方法を共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年避難訓練を実施しており、消防署の協力を得ながら避難経路の確認や消火器具の使用訓練などを行っている。	定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。地域町内会との協力体制や備蓄品の確認を行い、不意の災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格、プライバシーに配慮した声掛けや対応を心がけており、定期的なミーティングの際にも適切な対応を職員間で協議し共有するようにしている。	外国人雇用を行っている事から、特に接遇が介護の基本であることの理解に努め、トイレ誘導や入浴時の対応を丁寧に行う等、尊厳を損なう事のないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合った声掛けを心がけており、会話の中で気持ちを表したり、自己決定ができる場面を作るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、個人の生活リズムに沿った声掛けや誘導を行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が出来る方は一緒に着替える服を選ぶ等して支援し、それが難しい方でもできる限りその方らしい服装となるよう配慮している。ご本人の希望があれば理美容院への外出も支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好み、食べやすさを把握し、無理なく楽しい食事ができるよう心掛けている。	職員は利用者と同じテーブルで同じ食事を摂り、お互いに会話を楽しみながら、食事を支援している。コロナ禍においては、感染防止に留意しながら、出来る範囲のお手伝いをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分量摂取量を把握、スタッフ間で共有して、その人に合った量やバランスを考えた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じて口腔ケアの介助を行い、自立されている方についても口腔内の確認などを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	見守りや時間毎の声掛け、誘導など一人ひとりに合わせた支援を行っている。	トイレでの自力排泄を基本として、職員間で一人ひとりのサインを共有、見逃さないように注意し、無理のない自然な排泄となるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、少ない方にはゼリー等を捕食として提供するなど工夫して水分量を確保している。また、毎日の体操や散歩など運動する機会も作り便秘予防となるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴を楽しめ、普段は他の方を気にして出来ないような話もできるような時間となるよう支援している。	デイサービスも実施しており、お風呂は毎日沸かしていつでも、だれでも入浴できる体制で臨み、毎日が入浴日、を実施している。そのため、一日の入浴者も少数で、ゆっくりと落ち着いた入浴支援となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが自由な時間、服装で休息、睡眠ができるよう配慮し、夜間も定時巡回などで不安の訴え等に迅速に対応できるようにし、安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用の重要性を職員一人ひとりが理解し、時間や用法を守った服薬が行えるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に合わせて家事やレクリエーションへの参加を促し、それらが難しい方には会話の機会を増やす等して少しでも生活に張り合いがもてるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物や理美容院などの本人の希望に沿った外出はできる限り支援する他、花見や紅葉狩りなどの季節の行事を企画し外出の機会を創出するなどして支援している。	事業所の周囲は田園地帯であり、交通量も少なく、近所への散策には最適な環境で、天候と体調を勘案しながら、気軽な外出を支援し、閉じこもらない介護に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持の希望は最大限尊重し、買い物などの行使に対しても本人の希望通りに行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望があればその都度支援し、手紙なども必要に応じて代筆するなどして支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、トイレ等の共有スペースは常に明るく清潔に保つようしており、廊下の壁には季節の行事や、誕生日の写真などを飾るなどして安心できる空間となるよう工夫している。	居間は広く明るく、採光も優れており、温度や湿度の管理も適性の実施されている。事務室には薪ストーブに火が入れられ、柔らかな暖かさが居間にも広がっている。全体的に古民家風の造作で、装飾も施的な華美さはなく、やんわりと季節を感じられる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭に面した場所にも椅子を配置するなどして一人になれる場所も用意している。また、利用者同士で混乱が生じないよう人間関係にも配慮し、できる限り自由に過ごせる場所となるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れている物や希望する物をご家族とも相談して用意、適時清掃や整理整頓を行うなど居心地の良い空間となるよう工夫している。	居室には洗面台が備え付けられ、馴染みのダンスも持ち込まれ、壁には家族の写真もあり、ゆっくりと過ごせる工夫が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の前にはご本人の名前のプレートを下けている他、トイレには張り紙、お風呂前には暖簾を下げるなど施設内を分かりやすくする工夫している。		